

2021年度 ひかりの家学園 事業所における自己評価結果(公表) 2022.1.5

		チェック項目	はい	いいえ	課題や改善すべき点をふまえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースの関係で適切であるか	レ		適切である。目的用途に合わせて使用できるようにしている。ひばりクラスは少し狭いと感じる事があるが、活動内容に寄ってホールの利用を行っている。
	②	職員の配置数は適切であるか	レ		適切である。ゆとりをもって対応できるようにしている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	レ		見通しをもった生活が出来る様に環境が整えられている。記事物においての適当である。全職員が、園児を把握できるようになっている。
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	レ		掃除は丁寧に行って、心地良い空間づくりを目指している。特に感染症対策も行っている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか	レ		子どもの成長を確認し、その都度目標について会議をしている。
	⑥	保護者等向け評価表より、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意思等を把握し、業務改善につなげているか	レ		園評価を保護者にしていただき、その結果を皆で確認後、改善している。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	レ		保護者の見やすい位置に掲示をし、周知をしている。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		レ	第三者による外部評価は行っていない。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	レ		各自の課題に合った研修に積極的に参加している。内部研修では子どもたちの発達段階に沿った研修が行われている。また、必要に応じて外部講師にも依頼を行っている。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	レ		家庭訪問、個人面談をする中で親御さんからのニーズを聞き取る。成長段階にあった目標を設定し作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	レ		統一されたアセスメント票を使用している。適している。話の内容を細かく記録している。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「発達支援本人支援及び移行支援」、「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	レ		それぞれ課題に合った項目が盛り込まれている。地域移行に関しては隣の幼稚園との交流を入れている。具体的な内容になっている。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	レ		課題に沿った適切な支援が行われている。

	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	レ	各クラス、園全体で立案、相談している。
	⑮	活動プログラムが固定しないよう工夫しているか	レ	マンネリ化しないようにアイデアを出し合っている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	レ	個別指導、OT、音楽療法などをうまく取り入れながら活動をしている。コロナ感染症が心配される中であるが、積極的に活動を行っている。
	⑰	支援開始前には職員で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援内容の内容や役割分担について確認しているか	レ	本日の予定を確認し、各プログラムの準備を行っている。職員の配置も適宜行っている。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	レ	夕方職員が集まり、報告と、翌日の予定を確認している。緊急性の高いこと、ヒヤリハットについても確認をしている。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	レ	日々記録を行い、支援方法を振り返り、検証し、新たな方法を考える。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	レ	年に3回おこなっている。また必要であればその都度行っている。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか	レ	会議にはふさわしいものが出席している。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等も関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	レ	入園前の見学に同行、公開保育に参加している。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係と連携した支援を行っているか	レ	連携が取れている。緊急時に備え、連携している。医療的ケア児を預かる上で必要な物品等も相談している。園外活動にも、看護師を同行するにあたり、医療機関から協力を得ている。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	レ	関係者会議においても医師も同席して子どもの状態を詳しく教えて下さる。不安な時には聞くようにし、緊急にも対応していただけるようになっている。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	レ	併行通園先の園との情報交換、保育所等訪問支援事業を利用されているのでふさわしい支援を行っている。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	レ	年長児においては、就学先の教諭が園生活の様子を見学に来る。その際、課題を伝える。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し助言や研修を受けているか	レ	連携を行い、現状と、課題について各事業が抱える悩みについても情報交換を行っている。
	㉘	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか	レ	隣の幼稚園の子どもたちと一緒に行事に参加したり、園庭を共有し日頃から交流を行っている。

	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	レ	子どもの状態を把握するためにも、各会議に積極的に参加し、意見をつたえている。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	レ	発達状況、課題については、共通理解をもっている。成長を高くとらえている家庭においても、時には適切な考えを伝えるようにしている。
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	レ	ペアレントトレーニングは行っていないが、課題についてはふさわしい支援を一緒に考えて伝えるようにしている。
保護者への説明責任等	③2	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	レ	丁寧な説明を行っている。
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	レ	家庭訪問、個人面談を通して、個別支援計画書を提示し、同意を得ている。親御の希望を取り入れた上で作成されている。
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	レ	面談を定期的に行い、その他、必要に応じて相談に乗っている。
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者回答を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	レ	様々な活動において支援を行っている。保護者同士が楽しく過ごせるよう、協力理解出来る様配慮を行っている。
	③6	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に相談しているか	レ	迅速に対応出来る様になっている。迅速にこたえられないような要件については園長、主任に確認してから対応している。
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	レ	月に1回月報を発行し、クラスだよりもあわせて保護者に渡す。また、行事についても随時お便りをだしている。
	③8	個人情報の取扱いに十分注意しているか	レ	十分注意をして取り扱っている。
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているのか	レ	連絡ノート、送迎時に情報交換を行っている。随時電話対応により相談にのっている。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	レ	運動会、演奏会、スイミング等には、実習生、地域の方々にボランティアをお願いしている。
非常時等の対応	④1	緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	レ	緊急マニュアル、感染症対策マニュアルは策定してある。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	レ	地震、火災、竜巻の避難訓練を月に1回行っている。非常食も整っている。
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	レ	アセスメント時、健康について配慮する点を確認している。

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか	レ	アレルギー状況を親御さんから確認し、病院受診をしてもらい指示書をもっている。安心した環境の中で生活している。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	レ	過去に起こったヒヤリハットをファイルして同じことが起こらないようにしている。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	レ	虐待研修に行き、情報共有できるようにしている。関係機関と連携をとっている。
④⑦	どのような場合に已むを得ず身体拘束をおこなうかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	レ	拘束については、行わないと考えられる。よって、保護者にも同意を得ていない。記載もしていない。

○この事業所における自己評価結果(公表)は事業所全体で行った自己評価です。